

家庭決算書

新しい家庭経営のための会計情報

配帳式

2014年版

公認会計士・税理士・AFP

依田宣夫 著

「家庭決算書」

家庭環境が大きく変化し家庭財産管理の方法として複式簿記を利用した会計情報が有効な時代になりました。

複式簿記は、約 600 年前に人間の経験と知恵によって作られた最高傑作のひとつで今まで主に会社で利用されてきましたが、いまこそ家庭生活においても大いに活用すべきだと思います。

自分たちが望む生き方を実現するために、どのような時にどれくらいの資金が必要なのか長期的な視点に立った家庭経営を実践するために不可欠です。

家庭経営の目的は、
「健全な家庭」を維持しながら家族一人ひとりの「消費満足」を最大にするような家庭を築くことです。

家庭経営者の仕事は、財産や消費損益がどのようになっているのか「財産対照表」と「消費損益計算書」で知ることです。

この「家庭決算書」で自分たちのオリジナルな会計情報を作ることができます。

「家庭決算書」の特徴は次の通りです。

- 1 速動した報告書「財産対照表」と「消費損益計算書」を作成します。
- 2 家庭の真実の財産（正味財産）の金額を計算できます。
- 3 今までに築き上げた財産（留保財産）の金額を計算できます。
- 4 今年1年間で得た財産（当期消費損益）の金額を計算できます。
- 5 半年で終わることがなく毎年継続していきます。
- 6 会計情報が家庭の経営に役立ちます。

この「家庭決算書」が家庭の有効な会計情報として健全な家庭経営のお役に立つことが出来ればうれしく思います。

著者

はじめの財産対照表

「家庭決算書」

自分たちのオリジナルな「家庭決算書」を作りましょう！

家庭の財産は、1年間の消費活動の結果、「現在の財産」から1年後の「新しい財産」へと変化していきます。
この変化を家庭決算書では、次のように表します。

はじめの財産対照表

(20xx年1月1日現在)

(単位：円)

左方 (ひだりかた)	金額	右方 (みぎかた)	金額
資産の部		負債の部	
現金	15,000	住宅ローン	10,000,000
普通預金	300,000	その他借入金	0
定期性預金	1,000,000	カード未払金	30,000
その他預金	0	未払金	0
土地	0	後払い電子マネー	0
建物	0	その他負債	0
マンション	25,000,000	負債合計	10,030,000
有価証券	0	正味財産の部*	
保険積立金	0	家族財産	3,000,000
車両	500,000	留保財産	13,785,000
売却可能な高額品	0	当期消費損益	0
電子マネー	0	正味財産合計	16,785,000
その他資産	0		
現金過不足	0		
資産合計	26,815,000	負債正味財産合計	26,815,000

家庭の真実の財産

1年後の
財産対照表



1年後の財産対照表

1年後の財産対照表

(20xx年12月31日現在) (単位:円)

左方(ひだりかた)	金額	右方(みぎかた)	金額
資産の部		負債の部	
現金	26,523	住宅ローン	9,400,000
普通預金	880,000	その他借入金	0
定期性預金	1,004,000	カード未払金	58,000
その他預金	0	未払金	0
土地	0	後払い電子マネー	0
建物	0	その他負債	0
マンション	24,000,000	負債合計	9,458,000
有価証券	0	正味財産の部	
保険積立金	0	家族財産	3,000,000
車両	500,000	留保財産	13,785,000
売却可能な高額品	0	当期消費損益	142,523
電子マネー	5,000	正味財産合計	16,927,523
その他資産	0		
現金過不足	0		
資産合計	26,385,523	負債・正味財産合計	26,385,523

1年後の家庭の
高実の財産

消費損益計算書の
金額と一致

1. 家庭の高実の財産＝正味財産は、資産の合計金額から負債の合計金額を引いて計算されます。

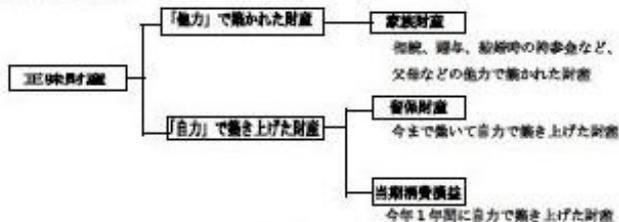
はじめの財産対照表

正味財産(16,785,000)＝資産合計(26,815,000)－負債合計(10,030,000)

1年後の財産対照表

正味財産(16,927,523)＝資産合計(26,385,523)－負債合計(9,458,000)

2. 正味財産の内容



「自力」で集めた財産は、正味財産の金額から「他力」で集めた財産の金額(家族財産)を引いて計算されます。

はじめの財産対照表

留保財産(13,785,000)＝正味財産(16,785,000)－家族財産(3,000,000)

3. 正味財産は、相続財産に該当し不働産などを相続税評価額に置き換えると相続財産の金額を計算することが出来ます。

消費損益計算書

消費損益計算書

(20xx年1月1日～20xx年12月31日)

(単位：円)

科 目	年 間	科 目	年 間
収入の部	金 額	特別収入の部	金 額
給 料	3,000,000	受取利息	4,000
賃 与	500,000	受取配当金	0
家族収入	0	受贈給付金	0
年金・その他	0	資産評価益	0
収入合計 (イ)	3,500,000	有価証券売却益	0
消費の部		その他	0
税金等		特別収入合計 (ハ)	4,000
(所得税)	120,000	特別消費の部	
(住民税)	50,000	住宅ローン支払利息	588,955
(社会保険料)	360,000	その他支払利息	0
(その他税金)	0	資産評価損	1,000,000
日常生活費		有価証券売却損	0
(食料費)	152,605	その他	0
(通信費)	111,132	特別消費合計 (ニ)	1,588,955
(交通費)	75,310	当期消費損益 (ホ)	142,525
(水道光熱費)	45,200		
(新聞図書費)	89,700		
(消耗品費)	12,325		
その他生活費			
(外食費)	173,300		
(交際費)	119,500		
(医療費)	0		
(旅行費)	218,250		
(教育費)	39,600		
(衣料費)	197,600		
消費合計 (ロ)	1,772,522		

財源対照表の金額と一致

$$\text{当期消費損益 (ホ)} = (\text{イ}) - (\text{ロ}) + (\text{ハ}) - (\text{ニ})$$

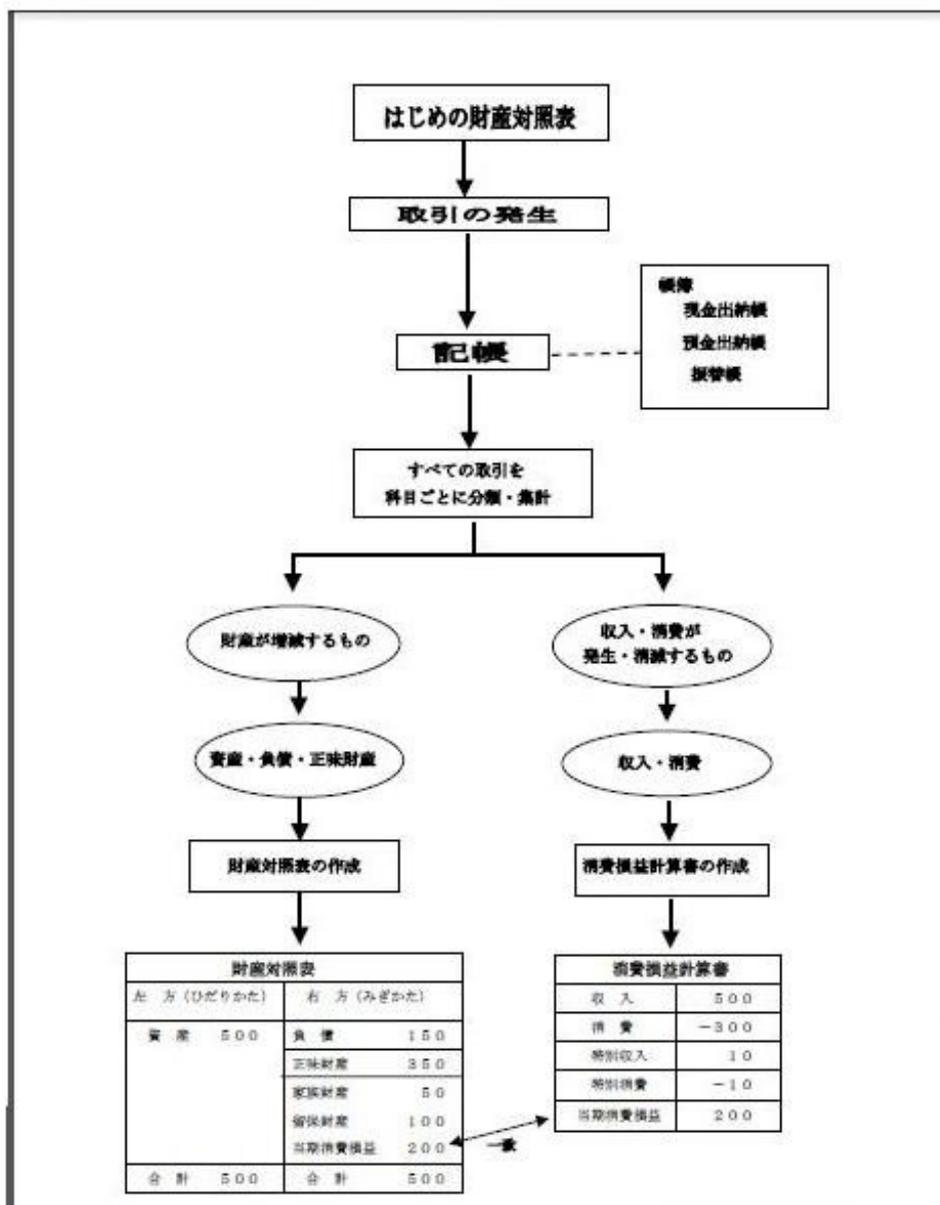
1. 家計決算書は、財源対照表と消費損益計算書から構成されています。
2. 家計決算書は、1年に1度家計簿記（家庭用複式簿記）によって決算をして作ります。また、財源対照表と消費損益計算書は連動しているのでそれぞれの「当期消費損益」は、必ず一致します。
3. 家計決算書は、単年で終わることなく翌年、翌翌年と継続していきます。

「家庭決算書」の一年間の作成プロセス

- ステップ1 家庭の財産のチェック
- ステップ2 はじめの財産対照表の作成
- ステップ3 帳簿（現金出納帳、預金出納帳、振替帳）に日々の取引を記帳
- ステップ4 月次の家庭決算書の作成
- ステップ5 決算整理（資産などの評価替え）
- ステップ6 決算「消費損益計算書」と決算「財産対照表」の作成
- ステップ7 今年の家計決算書を完成させる
- ステップ8 翌年度の「はじめの財産対照表」

- （付録1）月次の科目別集計表
- （付録2）消費科目の月別推移表
- （付録3）普通預金銀行別一覧表
- （付録4）カード未払金カード会社別一覧表
- （付録5）給与所得者の確定申告書

家庭決算書の作成プロセス



財産対照表	
左 方 (ひだりかた)	右 方 (みぎかた)
資 産 500	負 債 150
	正味財産 350
	家賃財産 50
	留保財産 100
	当期消費損益 200
合 計 500	合 計 500

一線

消費損益計算書	
収 入	500
消 費	-300
特別収入	10
特別消費	-10
当期消費損益	200

ステップ1 家庭の財産のチェック

ステップ1 家庭の財産のチェック

最初に開始日現在の自分の家庭の財産は、どのようなものがあるかチェックしてみましょう。

家庭の財産には、プラスの財産（資産）とマイナスの財産（負債）があります。

プラスの財産（資産）とは、家庭にあるもので売却できるものを言います。

したがって高額品でも売却できないものは資産として計上しません。

また、マイナスの財産（負債）とは、住宅ローンやカード未払金など将来支払わなければならない債務のことを言います。

家庭決算書では主な家庭の財産の内訳を科目ごとに次のように分類しています。

まず、自分の家庭の財産は、どのようなものがあるかチェックしてみましょう。

「家庭の財産チェックリスト」

チェック	科目	内 容	評 価 額
	資 産		
	現 金	紙幣・硬貨などの通貨（国内・外国） 小切手、商品券、トラベラーズチェック などの通貨代用証券も含まれます。	手持ち現金、家族全員が所持している現金の総額
	普通預金	銀行、郵便局、信用金庫など金融機関の 預貯金	普通預金の残高の合計金額 残高がマイナスの場合も、マイナス のまま合計
	定期性預金	銀行、郵便局、信用金庫の定期預金など、 金融機関の定期性の預貯金	定期性預金の残高の合計金額
	その他預金	外貨預金、当座預金、通知預金、金銭 信託、社内預金など	その他預金の残高の合計金額 外貨預金の残高は現在の為替レート で円換算した時価を記入します
	土 地	自己所有の土地	新聞や広告など最新情報をもとに できるだけ実勢価格に近い時価評価額
	建 物	自己所有の建物と建物附属設備	新聞や広告など最新情報をもとに できるだけ実勢価格に近い時価評価額
	マンション	自己所有のマンション	新聞や広告など最新情報をもとに できるだけ実勢価格に近い時価評価額
	有価証券	株式、公社債、証券投資信託の受益証券 など	株式、公社債、投資信託などの時価 評価額の残高の合計金額
	保険積立金	掛け捨てタイプではない保険（生命保	保険の解約返戻金残高の合計金額

ステップ2 はじめの財産対照表の作成

ステップ2 はじめの財産対照表の作成

「はじめの財産対照表」では、開始日現在の家庭の真実の財産（正味財産）の金額とあなたが今まで働いて自力で築き上げた財産（留保財産）の金額を計算します。そのためにステップ1でチェックした科目と各科目の金額を現金→普通預金→・・・と順番に記入します。

記入が終わったら開始日現在の家庭の真実の財産（正味財産）の金額とあなたが今まで働いて自力で築き上げた財産（留保財産）の金額を計算してください。

はじめの財産対照表
年 月 日 現在

左方（ひだりかた）	金額	右方（みぎかた）	金額
資産の部		負債の部	
現金		住宅ローン	
普通預金		その他借入金	
定期性預金		カード未払金	
その他預金		未払金	
土地		後払い電子マネー	
建物		その他負債	
マンション		計	
有価証券		正味財産の部	
保険積立金		家族財産	
車両		留保財産	
売却可能な高額品		当期消費損益	0
電子マネー		計	
その他資産			
現金過不足			
資産合計		負債・正味財産合計	

(注) 「はじめの財産対照表」ではまだ取引が発生していないので当期消費損益は発生しません。

(1) 正味財産（開始日現在の家庭の真実の財産の金額）の計算
正味財産＝資産合計－負債合計

(2) 留保財産（あなたが今まで働いて自力で築き上げた財産の金額）の計算
留保財産＝正味財産－家族財産

最初の記入はこれで完了です。

ステップ3 帳簿（現金出納帳、預金出納帳、振替帳）に日々の取引を記帳

ステップ3 帳簿（現金出納帳、預金出納帳、振替帳）に日々の取引を記帳

家庭決算書では、日々の取引を帳簿に記帳する際の勘定科目を次のように設定しています。

1 勘定科目一覧

1 消費損益計算書の勘定科目

勘定科目	内 容
収 入	
給 料	勤務先からの毎月の勤務手当などの支給額、諸手当なども含んだ金額を記録するための科目
賞 与	勤務先から臨時に支給される手当の金額を記録するための科目
家族収入	家族の人がパート・アルバイトなどで得た収入の金額を記録するための科目
年金・その他	年金、講演料、原稿料など臨時収入の金額を記録するための科目
消 費	
税金等	
(所得税)	所得に係わる国税の金額を記録するための科目
(住民税)	所得に係わる地方税の金額を記録するための科目
(社会保険料)	健康保険料、厚生年金保険料、雇用保険料などの金額を記録するための科目
(その他税金)	固定資産税、都市計画税などの金額を記録するための科目
日常生活費	
(食料費)	家で取る食事のための主・副材料費などの金額を記録するための科目
(通信費)	電話代、携帯電話やパソコンの通信費、切手、はがき代、TV 受信料、宅配便送料などの金額を記録するための科目
(交通費)	交通費、通勤・通学費、ガソリン代などの金額を記録するための科目
(水道光熱費)	電気、ガス、水道料などの金額を記録するための科目
(新聞図書費)	新聞、雑誌、書籍代などの金額を記録するための科目
(消耗品費)	家事、台所用品、園芸用品、一般雑貨などの代金の金額を記録するための科目
その他生活費	
(外食費)	家庭外で取る食事代金などの金額を記録するための科目
(交際費)	慶弔贈答品、干土座、来客接待費などの金額を記録するための科目
(医療費)	医療に関わる諸費用、薬品代などの金額を記録するための科目
(旅行費)	家族旅行、娯楽・行楽などのレジャー費などの金額を記録するための科目
(教育費)	学費、PTA・給食費、学習塾・お稽古代、文具代、教科書・参考書代などの金額を記録するための科目

ステップ3

カード未払金	色々なクレジットカード形式による購入代金の未払い分で、後日、銀行預金などから引き落とされるものを記録するための科目
未払金	借資産の購入代金の未払い額、消費代金の未払い額などの金額を記録するための科目
後払い電子マネー	ID・DCMX、クイックペイなど、後払い型電子マネーを記録するための科目
その他負債	一時的に現金などを受け入れた預り金、科目が決まらない仮受金などの金額を記録するための科目
正味財産	
家族財産	相続や贈与によって家族（父、母、兄弟姉妹、祖父母ほか）から譲り受けた財産、および結婚によって得た財産の金額を記録するための科目
留保財産	給与収入、資産の運用などによって、今までに、蓄積された財産の金額を記録するための科目
当期消費損益	当年度の消費生活の結果としての損益（財産の増減）を示す金額を記録するための科目

2 勘定科目「増加」・「減少」の仕訳のルール

家庭簿記（家庭用複式簿記）により、各勘定科目の増加・減少の仕訳は、次のように決まっています。

左方（ひだりかた）グループ	右方（みぎかた）グループ
資産 消費	負債 正味財産 収入

勘定科目は、左方（ひだりかた）グループと右方（みぎかた）グループに分けられます。

左方（ひだりかた）グループに属するのは、**資産**と**消費**で、金額が増加した場合には、左方（ひだりかた）に、減少した場合には、右方（みぎかた）に仕訳されます。

右方（みぎかた）グループに属するのは、**負債**、**正味財産**と**収入**で、金額が増加した場合には、右方（みぎかた）に、減少した場合には、左方（ひだりかた）に仕訳されます。

現金出納帳の記帳

1. 現金出納帳の記帳

現金の入出金があった場合は、ここで記帳します。

日付：現金の入出金があった日付を記帳します。

摘要欄：現金の入金・出金の内容を記帳します。

入金：現金の増加した金額を記帳します

出金：現金の減少した金額を記帳します

現金の入出金は、消費税込みの金額で記帳しますが、消費税と本体価格を分けて管理する時は、本体価格の相手科目は当該科目に、消費税額は「税金等—その他税金」に記帳します

相手科目：現金の入金・出金に対する勘定科目名を記帳します。

(例)

現金出納帳

(開始時の繰越残高は、はじめの財産対照の金額を記入)

日付	摘要	入金(左方)	出金(右方)	残高	相手科目
繰越				15,000	
1/15	スーパー		1,000	14,000	食料費
1/16	レストラン		5,500	8,500	外食費
1/26	預金より	30,000		38,500	普通預金(注)
1/27	スーパー		2,000	36,500	食料費
...					
	合計	30,000	8,500	36,500	
2/5	スイカ購入		1,000	35,500	電子マネー
2/10	スーパー		2,300	33,200	食料費

月次財産対照表の現金の増加欄へ記入

月次財産対照表の現金の減少欄へ記入

科目ごとに集計して、合計金額を月次消費損益計算書と月次財産対照表の増加又は減少欄へ記入
(例) 食料費 1000+2000=3000

(注) 相手科目欄の普通預金は現金出納帳で集計されるので月次財産対照表の増加又は減少欄への記入はしません。

預金出納帳の記帳

帳簿 2. 預金出納帳

2. 預金出納帳の記帳

普通預金の入出金に関するものは、預貯金通帳の入金・出金を見て、預金出納帳に記帳します。

記帳方法は、「現金」に準じます。

日付	摘要	入金(左方)	出金(右方)	残高	相手科目
繰越				300,000	
1/5	ガス代		1,000	299,000	水道光熱費
1/25	給料	250,000		549,000	給料
1/25	社会保険		30,000	519,000	社会保険料
1/25	住民税		5,000	514,000	住民税
1/25	所得税		10,000	504,000	所得税
1/26	現金へ		30,000	474,000	現金(注)
1/27	水道代		3,000	471,000	水道光熱費
...	合計	250,000	79,000	471,000	
2/10	カード引き落とし		5,000	466,000	カード未払金

月次財産対照表の
普通預金の増加欄へ記入

科目ごとに集計して、合計金額を
月次消費損益計算書と月次財産対照表の
増加又は減少欄へ記入
(例) 水道光熱費 1000+3000=4000

月次財産対照表の
普通預金の減少欄へ記入

(注) 相手科目欄の現金は、現金出納帳で集計されるので、月次財産対照表の増加又は減少欄への記入はしません。

ステップ4 月次の家庭決算書の作成

ステップ4 月次の家庭決算書の作成

ステップ4では、ステップ3で日々の取引を記録した3つの帳簿、現金出納帳、預金出納帳、振替帳から、一ヶ月ごとに科目別集計をし月次の家庭決算書を作成します。

現金出納帳と預金出納帳の左方（入金）と右方（出金）の1ヶ月間の合計金額は、月次財産対照表の現金及び普通預金科目の増加、減少額に直接記録します。

現金出納帳と預金出納帳の相手科目、振替帳に記録した各科目の1ヶ月間の合計金額は、月次消費損益計算書の当月欄と月次財産対照表の各科目の増加、減少額に記録します。

月次消費損益計算書の当期消費損益と財産対照表の当期消費損益は必ず一致します。もし一致しない場合は、計算間違いや記入ミスなどが発生していますのでチェックして両者の当期消費損益の金額を必ず一致させてください。

(例)

1. 現金出納帳

日付	摘要	入金(左方)	出金(右方)	残高	相手科目
繰越				15,000	
1/15	スーパー		1,000	14,000	食料費
1/16	レストラン		5,500	8,500	外食費
1/26	預金より	30,000		38,500	普通預金(注)
1/27	スーパー		2,000	36,500	食料費
...					
	合計	30,000	8,500	36,500	
2/5	スイカ購入		1,000	35,500	電子マネー
2/10	スーパー		2,300	33,200	食料費

月次財産対照表の現金の増加額へ記入

月次財産対照表の現金の減少額へ記入

科目ごとに集計して、合計金額を月次消費損益計算書と月次財産対照表の増加又は減少額へ記入
(例) 食料費 1000+2000=3000

(注) 相手科目欄の普通預金は、預金出納帳で集計されるので月次財産対照表の増加又は減少額への記入はしません。

ステップ4

2 預金出納帳

日付	摘要	入金(左方)	出金(右方)	残高	相手科目
繰上				500,000	
1/5	ガス代		1,000	299,000	水道光熱費
1/25	給料	250,000		549,000	給料
1/25	社会保険		50,000	519,000	社会保険料
1/25	住民税		5,000	514,000	住民税
1/25	所得税		10,000	504,000	所得税
1/26	現金へ		50,000	474,000	現金(注)
1/27	水道代		5,000	471,000	水道光熱費
...	合計	250,000	9,000	471,000	
2/10	カード引き落とし		5,000	466,000	カード未払金

月次財産対照表の
普通預金の増加額へ記入

月次財産対照表の
普通預金の減少額へ記入

科目ごとに集計して、合計金額を
月次消費損益計算書と月次財産対照表の
増加又は減少額へ記入
(例) 水道光熱費 1000+3000=4000

(注) 相手科目欄の現金は、現金出納帳で集計されるので、月次財産対照表の増加又は減少額への記入はしません。

3 振替帳

日付	摘要	左方科目	金額	右方科目	金額
1/27	カードで衣服購入	衣料費	10,000	カード未払金	10,000
	カード割引	カード未払金	1,500	その他特別利益	1,500
2/20	定期預金利息	定期預金	2,000	受取利息	2,000
	相続	土地	55,000,000	家族財産	55,000,000

科目ごとに集計して、合計金額を月次消費損益計算書と
月次財産対照表の増加又は減少額へ記入

(注) 月次の「科目別集計表」を利用する

月次消費損益計算書と月次財産対照表を作成する場合、1ヶ月の間に何回も計上された科目の合計金額を集計する場合(付録)の月次の消費損益計算書と月次の財産対照表の科目別集計表を利用してください。

月次消費損益計算書

1 月度消費損益計算書

科目	当月	累計	科目	当月	累計
収入の部	金額	金額	特別収入の部	金額	金額
給料			受取利息		
賞与			受取配当金		
家族収入			受贈給付金		
年金・その他			資産評価益		
収入合計			有価証券売却益		
消費の部			その他		
税金等			特別収入合計		
(所得税)			特別消費の部		
(住民税)			住宅ローン支払利息		
(社会保険料)			その他支払利息		
(その他税金)			資産評価損		
日常生活費			有価証券売却損		
(食料費)			その他		
(通信費)			特別消費合計		
(交通費)			当期消費損益		
(水道光熱費)					
(新聞図書費)					
(消耗品費)					
その他生活費					
(外食費)					
(交際費)					
(医療費)					
(旅行費)					
(教育費)					
(衣料費)					
消費合計					

月次財産対照表

1 月度財産対照表

科目	前月末	左 方	右 方	当月末	科目	前月末	左 方	右 方	当月末
	残 高	増 加	減 少	残 高		残高	減 少	増 加	残 高
資産の部					負債の部				
現 金					住宅ローン				
普通預金					その他借入金				
定期性預金					カード未払金				
その他預金					未払金				
土 地					後払い電子マ ネー				
雑 物					その他負債				
マンション					負債合計				
有価証券					正味財産の部				
保険積立金					家族財産				
事 向					留保財産				
売却可能な 高額品					当期消費損益				
電子マネー					正味財産合計				
その他資産									
現金通不足									
資産合計					負債・正味財 産合計				

ステップ7 今年の家庭決算書を完成させる

家庭決算書は、消費損益計算書と財産対照表から構成されています。

1、今年の消費損益計算書の作成

決算消費損益計算書の累計額を消費損益計算書の各科目欄に記帳し、今年の消費損益計算書を完成させます。

2、今年の財産対照表の作成

決算財産対照表の年度末残高を財産対照表の各科目欄に記帳し、今年の財産対照表を完成させます。

(注)

今年の消費損益計算書の当期消費損益と今年の財産対照表の当期消費損益は必ず一致します。

もし一致しない場合は、計算間違いや記入ミスなどが発生していますのでチェックして両者の当期消費損益の金額を必ず一致させてください。

1、今年の消費損益計算書の作成

1. 今年の消費損益計算書の作成

(例) 今年の消費損益計算書の作成

消費損益計算書 (20xx年1月1日～12月31日)

←決算消費損益計算書の累計額を転帳→

科 目	年 間 金 額	科 目	年 間 金 額
収入の部		特別収入の部	
給 料	3,000,000	受取利息	4,000
賞 与	500,000	受取配当金	
家族収入		受贈給付金	
年金・その他		資産評価益	
収入合計	3,500,000	有価証券売却益	
消費の部		その他	
税金等		特別収入合計	4,000
(所得税)	120,000	特別消費の部	
(住民税)	60,000	住宅ローン支払利息	588,955
(社会保険料)	360,000	その他支払利息	
(その他税金)		資産評価損	1,000,000
日常生活費		有価証券売却損	
(食料費)	152,605	その他	
(通信費)	111,192	特別消費合計	1,588,955
(交通費)	75,310	当期消費損益	142,523
(水道光熱費)	43,200		
(新聞図書費)	89,700		
(消耗品費)	12,325		
その他生活費			
(外食費)	173,300		
(交際費)	119,500		
(医療費)			
(旅行費)	218,250		
(教育費)	39,600		
(衣料費)	197,600		
消費合計	1,772,522		

財産対照表の
金額と一致

$$\text{当期消費損益 (ホ)} = (\text{イ}) - (\text{ロ}) + (\text{ハ}) - (\text{ニ})$$

2、今年の財産対照の作成

2.今年の財産対照表の作成

(例2) 今年の財産対照表

財産対照表
(20xx年12月31日現在)

決算財産対照表の年度末残高を記載

左方(ひだりかた)	金額	右方(みぎかた)	金額
資産の部		負債の部	
現金	26,523	住宅ローン	9,400,000
普通預金	850,000	その他借入金	
定期性預金	100,4000	カード未払金	58,000
その他預金		未払金	
土地		後払い電子マネー	
建物		その他負債	
マンション	24,000,000	負債合計	9,458,000
有価証券		正味財産の部	
保険積立金		家族財産	3,000,000
車両	500,000	留保財産	13,785,000
売却可能な高額品		当期消費損益	142,523
電子マネー	5,000	正味財産合計	16,927,523
その他資産			
現金過不足			
資産合計	26,385,523	負債・正味財産合計	26,385,523

消費損益計算書の
金額と一致

ステップ8 翌年度の「はじめの財産対照表」

ステップ8 翌年度の「はじめの財産対照表」

家庭決算書は、今年で終わることなく翌年、翌翌年と自分たちの家庭生活の記録を継続していくことが出来ます。

ステップ7の今年の財産対照表が翌年度の「はじめの財産対照表」になります。

ステップ7の「今年の財産対照表」の科目と金額を記入すると翌年度の「はじめの財産対照表」は完成します。

翌年度の「はじめの財産対照表」 (2014年1月1日現在)

左方(ひだりかた)	金額	右方(みぎかた)	金額
資産の部		負債の部	
現金		住宅ローン	
普通預金		その他借入金	
定期性預金		カード未払金	
その他預金		未払金	
土地		後払い電子マネー	
建物		その他負債	
マンション		負債合計	
有価証券		正味財産の部	
保険積立金		家族財産	
車両		留保財産(注)	
売却可能な高額品		当期消費損益	0
電子マネー		正味財産合計	
その他資産			
現金過不足			
資産合計		負債・正味財産合計	

(注)

翌年度の「はじめの財産対照表」の留保財産の金額は、今年度の財産対照表の留保財産の金額と当期消費損益の合計金額になります。